

# 特集あとかき

公益財団法人日本交通公社 観光文化情報センター長／旅の図書館長  
久保田 美穂子

「旅の図書館」の移転・リニューアルを記念して、本誌「観光文化」でも「旅の図書館」らしい特集企画に挑戦しようということになったのは2016年（平成28年）1月のことです。

特集1でも述べましたように、今回の移転・リニューアルは、右から左へという単純な移転ではなく、複数の課題に挑む新しい図書館づくりプロジェクトでした。蔵書については、収蔵方針の変更に伴う全収蔵図書の見直し、調査研究部門の資料室との資料データの統合、新しい独自分類の構築を行いました。また、図書館単体の建物とは異なり、新社屋は図書館と研究部門が共用し、建物全体を観光研究のネットワーク拠点としたいと考えたことから空間構成は複層的なものとなり、サイン、動線、利用・運営の計画づくりから什器<sup>じゅうき</sup>選びに至るまで、コンセプトを一つ一つの形にするための膨大な時間が必要でした。

本特集は、こうした移転・リニューアル開館と時期が重なりましたので、企画と準備、執筆には苦労がありました。特徴的な蔵書と図書のある空間の価値を再認識し、再編集し、活用いただくための発信を行うことが重要と考え、今だからこそこの想いで取り組みました。

まず特集1は、リニューアル後の「旅の図書館」のコンセプトと特徴をまとめ、利用についてご案内したもので、続いて特集2で、新しい収蔵方針と独自分類に沿って蔵書を詳しく整理して紹介しています。当館の蔵書を実際に研究活動の中でご利用いただいている東京国立近代美術館の木田拓也氏と高崎経済大学の 大野正人氏にメッセージもいただきました。

特集3は、「観光の研究と実務に役立つ」という新しい「旅の図書館」のコンセプトに沿って考えて企画した「一度は読みたい観光研究書&実務書100選」です。選定結果に関しては過不足他ご批判もあろうかと想像しましたが、「他に類するものがなく、まずは私たちが発信してみよう」と考え実行したものです。どうぞ「旅の図書館」までご意見をお寄せください。いずれホームページなどで、皆様から寄せられたご意見やレビューなどをご紹介するコーナーができたかと考えています。

特集4では、地域の図書館に関し

て観光・まちづくりの視点から考察しました。近年、各地の図書館はそのあり方を模索し、さまざまな取り組みを進めています。伊那市立高遠<sup>たかよ</sup>町図書館の「高遠ぶらり」は、市民はもちろん市民以外の人をも巻き込んだ活動に発展していますが、図書館として資料のデジタル化を目的としたのではなく、その先の活用を念頭に置いていたという構想に驚かされます。奈良県立図書情報館でも、図書館にある情報の魅力や面白さに気づいた市民がその気になり、行動しています。

当財団の調査研究部門はこれまで、観光を通じた地域の活性化に関するさまざまな調査研究活動、コンサルティングを行ってきました。「旅の図書館」としても、今後各地の図書館と観光・まちづくりとの関わりには注目し、果たせる役割について探りたいと考えています。

最後に特集5では、旅行作家の荒木左地男氏に旅心を誘う旅の本について分析し紹介していただきました。旅行需要を刺激する存在としては、

特定の地域を舞台にした映画やドラマ、小説なども多くの旅人を生んできたと言えますが、ここでは旅そのものへの憧れをかき立てる本を中心に、時代とともに変遷してきた旅のスタイルについて振り返っていただきました。特集3に挙げた観光研究や地域研究の本とは趣が異なりますが、観光を扱う研究者や実務家にとって、やはり知っておきたい、読んでおきたい本です。

さて、情報はこのように文字となり冊子となり、インターネットを通じてあつという間に伝わっていく時代となりましたが、その一方で、実際に図書館という空間に身を置いた時にしか得られない知覚、感覚というものも確かにあり、その価値への関心が高まっていると感じています。探してもはもちろんですが、探していないものとも出会うため、どうぞ「旅の図書館」へ足をお運びください。

くぼた みほこ

■ リーフレットで振り返る「旅の図書館」のこれまでとこれから

<p>蔵書1万4000点。国内と海外に大きく分かれ、日本交通公社出版事業局発行の雑誌、書籍が全部、国土地理院の地図が揃っていることが謳われている。</p>	 <p>1982.10~</p>	<p>蔵書1万4000点。新聞雑誌120種類。この年、閲覧席は18に増えた。レファレンスは祭り・行事を含めた観光資源に関するものが多かった。</p>	 <p>1981.10~</p>	<p>蔵書1万4000点。新聞雑誌100種類。1月には来館累計3万人に到達。</p>	 <p>1980.10~</p>	<p>1978年10月開館時の蔵書4000点から1年で蔵書1万点に。閲覧席数が12席という規模だったが、8月には来館累計1万人に。まだ喫煙可だった。</p>	 <p>1979.10~</p>				
<p>蔵書が2万5000点に。1999年、名称を「旅の図書館」に改称。</p>	 <p>1998.9~</p>	<p>蔵書1万9000点。5月には来館累計50万人に。</p>	 <p>1997~</p>	<p>蔵書1万8000点に。1996年第一鉄鋼ビルから第二鉄鋼ビルへ移転。</p>	 <p>1995.4~</p>	<p>蔵書1万7000点。閲覧24席。7月来館累計30万人。1994年6月来館累計40万人。</p>	 <p>1991.11~</p>	<p>蔵書1万7000点。1988年図書管理システム稼働。土曜日が休館日となった。</p>	 <p>1989.1~</p>	<p>蔵書1万4000点。来館累計1984年5月10万人。1987年2月20万人。1985年、全館禁煙。</p>	 <p>1983.10~</p>
<p>南青山の日本交通公社ビル内に移転。蔵書6万点。</p>	 <p>2016.10~</p>	<p>4代目のリーフレット以来、久々の4色化。2012年第一鉄鋼ビルから八重洲スタイルへ移転。</p>	 <p>2012.~</p>	<p>一般用リーフレットと研究者用リーフレットに分けて制作。蔵書3万2000点。</p>	 <p>2010.9~</p>	 <p>2010.9~</p>	<p>蔵書3万点。</p>	 <p>2008.1~</p>	<p>蔵書3万点。デジタル画像用PCが追加され、CD-ROM用PCが廃止された。</p>	 <p>2007.5~</p>	 <p>2007.5~</p>